

<p>11 【C】 【A】</p>	<p>訓練結果の自己評価・分析</p>	<p>(継続的な向上) PDCAを回し、1つ上のレベルに到達し、これを繰り返すことで継続的な向上に繋がっている(スパイラルアップが出来ている)。</p>	<p>(現状の維持) PDCAを回しているものの、現在のレベルを維持している。 ・検証・評価ができていない ・計画で設定した目標と比較し、目標に近づいたのか評価していない ・改善点が見つからない ・改善案が適切ではない ・次のサイクルで目標、課題を設定せずにPDCAサイクルを回す等</p>	<p>(A、B以外) PDCAが回っていない。 ・同様の問題が毎年繰り返し確認されている等</p>	<p>B(現状の維持) ・初年度は、PDCAの内容まで測定できず。 ・検証・評価について現状では判断できず。 ・計画で設定した目標の達成度は、難易度の容易な相互の社内ルールに基づく活動であり、目標は達成していた。<u>ただし、改善点・対策については現状では確認できず。(次回面談時確認)</u></p>	<p>A (継続的な向上) or B (現状の維持) ・初年度はAの効果まで測定できず、PDCまでの評価に留まる。(A評価は、翌年度に評価が出来るものと思慮) ・改善に取り組みようとしているが、具体的な対策ではない 例：対策すると、原因が取り除かれ、課題が解決するか？ (課題) ・基本的なLSBの運営(発電所への応援要員の受入や支援物資の輸送等)はできていたものの、<u>全体的に運営規模が小さく、シナリオが実発災の想定に欠けている。</u> (原因・要因) ・これまでのLSB訓練でLSB運営に係る対応の習熟が図れていたことや、LSB運営手順書が整備されており、各要員が手順を理解し活動できていたものの、<u>支援組織との連携に重点を置くために、運営規模としては小さなシナリオをこなしていた。</u> 「これが根本原因なのか？」 (対策) ・実発災を想定したシナリオでの訓練(LSB受入人数や受入資機材の増加など)を計画的に実施することについて検討する。</p>	<p>(A)可能な範囲で評価実施 :PDCAを回し、1つ上のレベルに到達し、これを繰り返すことで継続的な向上に繋がっている。</p>	<p>訓練実施及び訓練結果の自己評価において、【C】適切に検証・評価がされ、【A】評価にしたがって改善すべき事項が抽出され、具体的な対策の方針を定めているか確認する。 防災訓練実施結果報告書等により確認する。 ①計画された目標の達成基準に基づき適切に評価が行われたか ②改善すべき事項の抽出がされているか (目標未達の成果) 目標を下回る成果や新たに見つかった問題について、原因の分析がされているか (目標以上の成果) 目標を上回る成果や継続すべき良好な行動について、原因の分析がされているか ③改善すべき事項について、具体的な対策が図られている、あるいは、改善に取り組んでいるか ②については、いわゆる「なぜなぜ分析」等が行われ原因を深掘りして分析されていることを確認する。 なお、訓練実施前に指標1で確認した情報フローについての自己評価、指標9で確認する緊急時対応組織の能力の向上に係る自己評価や改善状況についても、この指標で確認する。 本指標に基づく評価に当たり、悪い点だけではなく、緊急時対応能力の向上に繋げる観点で、良い点についても抽出・分析が行われ、必要に応じて組織間で共有されるかなど確認する。</p>
---------------------------	---------------------	--	---	---	---	---	--	--